



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第14号

2021年8月7日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

緒川小学校 夏休み学校開放 3日目

8月4日、この日も緒川小学校で学校施設開放が行われました。とても暑い日でしたが、そんな中、4人のSPさんが来てくれました。先日から活動してくれている団野SP、ウィークリーSPとして活動してくれている杉本SP、今日が初参加の都築SPと原田SPです。朝の打ち合わせ会では、それぞれの自己紹介が行われ、良い緊張感に包まれながら活動がスタートしました。



団野SPは、初日とは全然雰囲気が変わりました。子どもたちとの関わり方が各段に上手くなっているなあと、教室に入った瞬間に感じました。3日目でここまで変わるの?!と本当に驚きました。団野SPを見ていると、子どもと視線がよく合っていることが分かります。目を見て話すことはコミュニケーションの基本です。その基本が、自然と出来る団野SP。「子どもたちの些細な雰囲気の違いも、気づいてくれた」と現場の先生も話してくださいました。活動3日目にして、すでにスーパーSPさんです。



杉本SPは、6月からウィークリーSPとして緒川小学校で活動してくれています。先生方との連携はさすがでした。先生からの説明を受けてすぐに活動に入っていく、子どもたちに声をかけていました。見守るところは見守り、声をかけるところでは声をかける。そのバランスはとても難しいと思います。「どうしたら良いだろう」「今の声かけ、どうだったかな」「もっとこうの方がいいのかな」と悩む瞬間がたくさんあったと思います。しかし、今日悩んだことこそ、SP活動の醍醐味だと思います。ぜひ、いろいろ試してみてください。周りには、ベテランの先生方や他のSPさんもたくさんいます。いろいろな方法を見て、良いと思った方法は盗み、試してみてください。また、他のSPさんと悩みを共有したり、「自分はこうしたよ」という話をしたりすることも良い学びにつながると思います。歴代のSPさんたちも、そうして学びを深め、切磋琢磨していました。



原田SPは今日が初日です。大学1年生ということで、現場を教師視点で見ることにも初めてだったようです。緒川小学校の独特の校舎（オープン・スクール）にも戸惑ったと思います。校内を見学している時は緊張した様子でしたが、途中、子どもから声をかけられるとパアッと満面の笑みで話していました。活動中、迷うこともあったと思いますが、終始穏やかなトーンで子どもたちに接してくれていました。原田SPが穏やかだからこそ、原田SPと話している子どもたちもとても穏やかだったのでしょう。



都築SPも同じ大学1年生ですが、緒川小学校出身ということで、オープン・スクールの校舎を存分に生かして動いてくれているなあと感じました。途中、休憩をする時にオープン・スペースや図書コーナーに移動して、子どもたちの話を聞いたりしていました。教室を出て動くことに抵抗があるSPさんも多いと思いますが、緒川小学校出身の都築SPだからこそ、柔軟に場所を使うことができているのだと感じました。その姿を見て、教育のつながりを感じました。卒業生が、大学生になってまた母校に戻り、後輩である児童に接している姿は、素直に「すばらしいなあ」「いいなあ」と感じました。都築SPと原田SPは後期からウィークリーSPとしても緒川小学校で活動してくれる予定です。2人のSPさんの活躍がとても楽しみです。



今日来てくれた4人のSPさんたちを見ていると、本当に子どもが好きなんだなあということがよく伝わってきます。大人と話している時以上に、子どもたちの前に行くとき最高の笑顔浮かべて話をしています。素敵な光景です。優しい雰囲気、一生懸命話を聞いてくれる姿勢、最高の相槌、そしてなにより満面の笑顔……、子どもたちは当然SPさんたちの周りに集まります。話を聞いてくれたら大人でも嬉しいものです。子どもたちは次から次へとSPさんたちに話しかけていました。あんな風に話を聞いてくれる人がいたら、それだけで「学校に来てよかった」と思えるでしょう。子どもたちの笑顔を見ていてそう感じました。最高のSPさんたちが、今日も最高の支援をしてくださいました。ありがとうございました。

